

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

&lt;小規模多機能型居宅介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1475201107
法人名	特定非営利活動法人のぞみ
事業所名	のぞみの家 宮内
訪問調査日	令和7年2月3日
評価確定日	令和7年4月1日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

### ○項目番号について

外部評価は23項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和6年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475201107	事業の開始年月日	平成17年5月1日	
		指定年月日	平成18年5月1日	
法人名	特定非営利活動法人のぞみ			
事業所名	のぞみの家 宮内			
所在地	( 〒211-0051 ) 川崎市中原区宮内3-10-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和6年12月24日	評価結果 市町村受理日	令和7年4月3日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

引き続きレクリエーションに力を入れて、入居者・職員共に楽しく過ごせる時間を多くしたい。
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和7年2月3日	評価機関 評価決定日	令和7年4月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>●この事業所は特定非営利活動法人のぞみの運営です。同法人は地域に住む認知症高齢者の方が職員の支援を受けながら、自信と安心感をもち、住み慣れた地域の中で日常生活が送れるよう支援を行うとともに、家族の負担軽減を図り、認知症高齢者の福祉増進を図ることを目的として2002年に設立された法人です。現在は横浜・川崎・藤沢・鎌倉の4つの市でグループホームを計6事業所を運営している他、訪問介護、居宅介護支援事業所の在宅系サービスを展開しています。また、系列会社では、有料老人ホーム・共同住宅・食材卸売・配送業務も行っています。このぞみの家宮内は、JR南武線「武蔵中原駅」から徒歩15分程の場所にあり、同じ敷地内に隣接して同法人のグループホーム「のぞみの家i(あい)」もあります。</p> <p>●管理者は「笑顔あふれるホーム」づくりを目標に掲げ、全職員で話し合いながら新たな理念「笑顔で明るく挨拶と会話をしよう」を作成しました。目標と理念に沿ったケアを実践すべく、出勤時には必ず利用者一人ひとりに挨拶すると共に会話する時間を持つようにし、月1回の全体会議やカンファレンスで理念の振り返りを行っています。管理者は実践しやすい取り組みを理念に掲げ、月1回の全体会議やカンファレンスで実践状況を振り返り、達成したら新たな理念を職員で話し合い作成することで、意識改革につなげるようにしています。</p> <p>●介護職員として必要なスキルでもある「洞察力」を身につけてもらう為、管理者は1回の勤務ごとに業務や利用者のこと問わず「気づき」を提出してもらうようにしています。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	のぞみの家 宮内
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議やカンファレンス等でも理念について触れてはいるが、職員の入れ替わりが多く、外国人実習生への共有にも苦慮しているが引き続き時間をかけしっかりと共有に努めたい。	法人の理念「安心・安全・快適な福祉サービスの提供」とは別に事業所独自の理念を新たに作成しています。事業所の理念に「笑顔で明るく挨拶と会話をしよう」を掲げ、出勤時には必ず利用者一人ひとりに挨拶すると共に会話する時間を持つようにし、月1回の全体会議やカンファレンスで理念の実施状況について、振り返りを行っています。		今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等でご家族や近隣住民の方にも参加頂き、地域の行事にも積極的に参加し地域住民との繋がりを築いていきたい。	地域住民との関わりは、日々の散歩、宮内公民館で開催される「宮内カフェ」、隣接している「のぞみの家i」と合同で開催している餅つき、芋煮会に参加し、交流を図っています。ボランティアの受け入れも再開し、茶道、傾聴ボランティアの方の来訪もあります。		今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2～3ヶ月ごとの運営推進会議を実施、グループホーム連絡協議会にも参加している。地域ケアマネとの交流にて緊急ショートの受け入れも行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月ごとの運営推進会議を実施、グループホーム連絡協議会にも参加している。	以前までは、隣接している「のぞみの家i」他法人の施設と合同で開催していましたが、単独開催(年4回)、他法人の施設と合同開催(年2回)で行っています。事業所の現状や活動状況を中心に事故・ヒヤリハット、身体拘束適正化委員会の内容についても報告しています。議事録は市に提出している他、家族には閲覧出来るよう玄関に設置しています。		今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2～3ヶ月ごとの運営推進会議を実施、グループホーム連絡協議会にも参加している。	川崎市健康福祉局長寿社会部高齢者事業推進課とは、必要に応じて連絡して助言や相談に乗っていただきながら事業所運営を行っています。中原区のグループホーム連絡協議会に参加し、年2回他の事業所と研修会や情報共有に努めています。地域包括支援センターとは、空き状況等の情報提供を行っており、入居問い合わせを受けることもあります。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、毎月の全体会議にて身体拘束について触れている。年2回、近隣のグループホームと合同で身体拘束・虐待について研修も実施。	身体拘束・高齢者虐待防止法については、指針とマニュアルを整備し、必ず全職員を対象に研修も実施しています。身体拘束については、法人研修とは別に年2回、近隣のグループホームと合同勉強会も開催し、チェックリストを用いた自己点検や事例を持ち寄っての検討会も実施しています。さらに、3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を開催し、管理者・計画作成担当者・当日勤務の職員で入居者の対応や言葉遣いについても討議しています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、毎月の全体会議にて虐待について触れている。年2回、近隣のグループホームと合同で身体拘束・虐待について研修も実施。	身体拘束・高齢者虐待防止法については、指針とマニュアルを整備し、必ず全職員を対象に研修も実施しています。高齢者虐待防止については、法人研修とは別に年2回、近隣のグループホームと合同勉強会も開催し、チェックリストを用いた自己点検や事例を持ち寄っての検討会も実施しています。さらに、3ヶ月に1回虐待防止委員会を開催し、管理者・計画作成担当者・当日勤務の職員で入居者の対応について討議しています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人を利用している方もいます。今回も後見人を利用される方がおりましたので、一部の職員では有りますが、後見人制度について学ぶ機会がありました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者会議・全体会議にて共有し、実施している。	重要事項説明書に明記している苦情相談窓口について、契約時に説明しています。家族からの意見や要望は来訪時、電話連絡時、運営推進会議、LINEでも何うようにしており、口頭、業務日誌、個人記録等で職員にも情報を共有しています。利用者からの意見や要望は日々の会話から汲み取るようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や、全体会議で意見を聞き、繁榮させている。	毎月の管理者会議の内容を事業所内の全体会議で共有し、法人の運営方針等、必要事項を周知しています。業務や入居者のケアに関する情報は、ユニット会議や全体会議で意見交換しながら取り入れています。現在は事業所の全体会議(月1回)時に法人の理事長、副理事長も出席するようになり、現場職員からの意見を聴いたり、直接話が出来る機会もあります。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課制度を実施、個々の実績に応じ評価している。	法人では人事考課制度を導入しており、年2回自己評価を基に職員との個別面談を実施し、管理者が評価した後に法人へ提出しています。また、個別面談では、個人目標の設定と目標に対する取り組みや進捗状況について振り返りを行っています。シフト作成は管理者が行っており、希望休や有給休暇の取得については、極力希望通りに取れるよう調整しています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修の推進を実施、費用等も法人負担にて受け入れるよう配慮し、法定研修も毎月実施している。入職時にはOJTにて指導を行い、チェックシートや振り返りシートにて確認している。	法人として資格取得支援を充実させ、職員向けに資格取得講座や勉強会などを開催し、資格を取得しやすい環境を整備しています。職員が外部研修に参加しやすいよう受講費用の補助や法人研修、事業所内研修も毎月実施され、職員の知識や専門性の向上に努めています。OJTはチェックシート・振り返りシートを活用し、職員の育成を行っています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会など参加にて、交流に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族・ご本人より聞き取りシートにてご要望を伺い、プランに反映させる。居室担当により、ご本人から要望を聞き、不安の解消をすることにより、信頼関係を築く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族・ご本人より聞き取りシートにてご要望を伺い、プランに反映させる。居室担当により、ご本人要望を聞き、不安の解消することにより、信頼関係を築く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のアセスメントを元に、入居前の生活が継続できるよう、入居者様やご家族の意向に沿った支援ができるよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を生かし、出来ることはやって頂き、出来ないことを支援することを大切にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の気持ちに寄り添い、ご家族も一緒に支援して行く事を大切にしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の生活で築いた関係を大切に、なじみの方との交流を継続できるよう努めている。	現在は、面会・外出・外泊等は自由にしていただけるようにしており、居室での面会や、家族と外出や外食に行かれています。年賀状や手紙が届いた際には、本人に直接渡しており、返事を出したいと希望された方の支援も行っています。また、携帯電話を持ち込まれている方もおり、ご自身で操作できる人は家族と連絡を取り合っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士も、お互いに気遣い、支え合える関係が出来るよう支援に努める。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	老老介護の現実の中で、入居者様のお子様達も高齢な方が多いので、支援が必要な時は手を差し伸べられる関係性に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	おひとりおひとりの要望になるべく応えられるよう、居室担当を設け、職員が個々に関わることで意向の把握に努めている。	入居面談時に過去の生活歴・既往歴・趣味嗜好品・事業所での暮らし方の希望等について聴き取りながら基本情報シートを作成し、入居者の思いや意向に沿った支援ができるよう、職員間で情報共有しながらケアに反映させています。意思疎通や意思表示の難しい方には、家族やキーパーソンの方から情報を引き出すようにしています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントを元に、入居前の生活が継続できるよう、入居者様やご家族の意向に沿った支援ができるよう努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立を尊重し、個々の有する能力に応じた個別ケアに努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い、個々の状態の把握とケアの内容を確認、変更等はご家族へも確認、了承を頂き、介護計画へ反映している。	入居時のアセスメントで得られた情報を基に初回の介護計画を作成し、1ヶ月程度を目安に様子を見ながらADLやIADLに関する情報を収集し、毎月のユニット会議で入居者の状態についてモニタリングを行っています。介護計画の見直しについては、短期目標の設定期間(半年)、もしくは状態の変化が合った方を中心にアセスメントを行い、その方に合わせた介護計画につなげています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月カンファレンスを行い、個々の状態の把握とケアの内容を確認、変更等はご家族へも確認、了承を頂き、介護計画へ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月カンファレンスを行い、個々の状態の把握とケアの内容を確認、変更等はご家族へも確認、了承を頂き、介護計画へ反映している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣公民館で開催の、認知症カフェへ参加し、地域住民との交流を図っています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人・ご家族の意向を伺い、今までの掛かりつけ医を継続するか、それとも施設の嘱託医に移行するかを確認、ご希望に沿う対応に努めている。	契約時に協力医療機関について説明するとともに、かかりつけ医の有無を確認しています。現在は3ヶ所のクリニックから主治医が往診に来ており、各々契約している主治医に往診を受けています。事業所では看護師を雇用しており、週4回看護師による健康管理も行われています。歯科は必要な方のみ契約し、口腔ケア等を受けています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を契約、個々の状態変化を共有し、入居者様の健康に留意している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療関係やご家族との連絡を密にし、早期退院できるよう対応、退院後も安心して戻って頂けるよう努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けて、医師の診断の元、ご家族様のご意向があれば、ご家族様と話し合い、充分な説明、同意の元、指針を共有し、お看取りの支援に取り組んでいます。	入居契約時に重度化や終末期における指針について説明し、同意書を取り交わしています。事業所では看取りを行う方針としており、看取り対象の方の有無問わず、年1回は職員に対して研修を実施しています。状態の変化が見られた段階で、主治医・家族・管理者による話し合いの場を設け、今後の方針を共有しながら対応しています。昨年から今年にかけて1名の方の看取りを行っています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、訪問看護師、管理者に報告、アドバイスを貰える体制は出来ているが、職員個々の判断で応急手当や初期対応が難しい現状なので、研修を実施、実践力を身につけていきたい。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施しているが、地域住民との協力体制の構築には至らず、今後の課題として、近隣住民も交え防災訓練の実施を目指したい。	年2回の防災訓練は消防設備点検に合わせて消火・通報訓練を実施しています。近年は自然災害が猛威を振っていることから、今後は風水害等も想定した訓練を取り入れた訓練や、近隣住民との協力体制構築を課題としています。また、BCPの策定や防災備蓄リストも作成し、分散管理を行っています。事業所では3日分の水や食糧、衛生用品、ポータブルトイレ等は準備しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、言葉かけには職員同士でも常に注意し合いながら、自尊心を傷つけない言葉使いや対応に努めている。	人生の先輩として、尊厳や自尊心、羞恥心を損なうことのないよう、特に言葉遣いには注意しています。また、NGワードや対応を定め、不適切な言葉や対応が見受けられた際には、職員同士が互いに注意し合えるような雰囲気作りを心がけています。フロアで申し送りを行う際には、声の大きさや氏名を出さないようにする、トイレの戸が空いてたら閉めることを徹底し、プライバシーや羞恥心に配慮した対応を心がけています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室担当制を設け、ご家族やご本人の思いをくみ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自身のペースを大切にし、ご自身の希望に沿った過ごし方を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様が髪の毛のカットや毛染等、自由に選択出来るよう、訪問理美容を利用して頂いています。入浴時の着替えについても、ご本人で選択出来る方については一緒に準備をしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	提携会社による献立より材料を仕入れ、事業所内で、お手伝いの出来る方にはお手伝いをして頂き、手作りをしています（事業所の売りの一つです）片付けもご利用者様が積極的にお手伝いしてくれています。	法人の提携会社が立てた献立を基に食材を発注し、職員が調理しています。出来る方には、盛り付け・食器拭き・洗いなどを負担にならない範囲で手伝っていただくようにして、残存能力の維持につなげています。2階フロアには調理専任の職員がいることから、その分入居者に手厚いケアが行える体制となっています。今後は、誕生日の方に希望に応じた個別の外食支援を検討しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・排泄チェック表を記録し、個々の食事・水分量の把握に努め、個々に応じた対応の支援に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の状態確認、異常が有るときは直ぐに提携歯科医へ繋げています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄については、おひとりおひとりの排泄パターンを把握し、自立の方は見守りにて行って頂き、介助が必要な方についても、座位の保てる方についてはトイレに座って頂いています。法人全体でおむつゼロ作戦を実施し取り組んでいます。	一人ひとりの排泄・水分摂取量を記録につけ、排泄状況や水分摂取量を把握し、自立している方は見守りで、職員の介入が必要な方は声かけや介助を行うことで、トイレでの排泄につなげています。安易にオムツ等を使用せず、極力自立した状態を維持できるよう工夫しながら支援しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水便・排泄表を確認、特に水分摂取には留意し、飲食や運動での改善も併せて、個別の対応に努めています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	最低週2回の入浴日を設定していますが、その日のご本人の意向や意向を考慮し、無理強いしない支援に努め、又ご要望に応じ、同性介助にも留意しています。	週2回、午前中を基本とした入浴支援を行っています。入浴前にはバイタルチェックとともに本人の意向を確認し、無理強いすることなく、気分良く入浴していただけるように支援しています。浴槽は一般浴ですが、重度化した方は同敷地内に隣接している「のぞみの家i」の機械浴で入浴していただくことも可能となっています。現在はいませんが、同性介助を希望される方がいる場合は、職員の配置を変更するなどして、対応するようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のご自身のペースで自室で休息したり、好みに過ごせるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人の服薬について、目的や副作用についても理解し、変更の際は申し送りや、往診記録等で、情報共有を行い、全職員に周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じてお手伝いをして頂いたり、嗜好品・楽しみ等を把握し、個別の支援に努めています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一部のご家族は週1回ドライブ等実施、支援頂いています。隣の公民館で行う認知症カフェに参加したり、天気の良い日は近隣の公園に散歩に行くなど、少しずつ実施出来ている。	最近は気候の変動も激しく、なかなか外にお連れする機会は持てていませんが、気候が良い日には近くの公園、駐車場に出たり、宮内カフェ（宮内公民館）に参加したり、隣接している「のぞみの家」で合同で開催している餅つき、芋煮会に参加して利用者同士の交流、個別で買い物にお連れするようにしています。今後の目標として、外出レクを増やすことを検討しています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、お小遣いとしてご家族よりお預かりし管理していますが、現在ご自身でお金を使用できる方がいないので、ご希望に応じ、職員が嗜好品の買い物の支援を行っています。又施設内の自販機でジュースを自身で選び飲んで頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で携帯電話をお持ちの方もいますので、自由に連絡の出来る支援をしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族やご本人の意向を伺って、ご家庭と同じような設えを支援しています。又なじみのある家具や小物等も自由に持ち込んで頂いています。	室内の照明はLEDに切り替え、2階の廊下には天窓もあることから室内は十分な明るさが確保されています。リビングにはカラオケの機械も設置されており、レクや体操時に活用しています。また、整理整頓を心がけ、安全面を確保しながら快適に過ごしていただける空間づくりがされています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居様同士が、お互いにお部屋を行き来し、おしゃべりをする等、思い通りに過ごせる空間作りに努めています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居様については、使い慣れた家具やお好みの物を取り入れた空間作りに留意しているが、泊りのご利用者様については、なるべく安心でき、落ち着いて過ごして頂ける空間作りに努めています。	入居時には使い慣れた家具や寝具を自由に持ち込んでいただき、馴染みある物や思い出の品に囲まれながら、落ち着いて過ごせる空間づくりをお願いしています。ADLの変化によっては、家族と相談して配置替えや模様替えを行うこともあります。各居室には温度計、湿度計が設置され、適切な環境下で過ごせるように調整しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身のお部屋の入口に表札を設置したり、トイレ等もわかりやすく案内板を設置する等ご入居様が安心・安全で過ごして頂く空間作りに努めています。		

目 標 達 成 計 画

事業所 のぞみの家 宮内

作成日 令和7年2月3日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
		職員の入退職が多く、 教育しても直ぐに辞め てしまう為、職員のス キルアップには繋がら ないのが現状。	常勤・非常勤に関わら ず、長く勤めてもら う。	法人全体で取り組んで 貰い、福利厚生・研修 制度を充実させる。	1年
		管理者以外に職員を指 導できる人材がないた め、新人の育成が難 しい。	新人教育が出来る職員 を育てる。	外部研修（リーダー研 修等）に参加させる。	1年
		外国人実習生が常勤の 半数を占めるため、業 務はこなせても、それ 以外の仕事（事務的な こと）を教えることが 難しい。	外国人実習生の中には 介護福祉士の資格を目 指している職員もいる ので、資格取得後は業 務以外の仕事も覚えて もらう。	入社3年目の実習生に 指導、事務仕事や往診 対応等を教育中です。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	のぞみの家 宮内
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議やカンファレンス等でも理念について触れてはいるが、職員の入れ替わりが多く、外国人実習生への共有にも苦慮しているが引き続き時間をかけしっかりと共有に努めたい。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等でご家族や近隣住民の方にも参加頂き、地域の行事にも積極的に参加し地域住民との繋がりを築いていきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2～3ヶ月ごとの運営推進会議を実施、グループホーム連絡協議会にも参加している。地域ケアマネとの交流にて緊急ショートの受け入れもを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月ごとの運営推進会議を実施、グループホーム連絡協議会にも参加している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2～3ヶ月ごとの運営推進会議を実施、グループホーム連絡協議会にも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、毎月の全体会議にて身体拘束について触れている。年2回、近隣のグループホームと合同で身体拘束・虐待について研修も実施。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、毎月の全体会議にて虐待について触れている。年2回、近隣のグループホームと合同で身体拘束・虐待について研修も実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人を利用している方もいます。今回も後見人を利用される方がおりましたので、一部の職員では有りますが、後見人制度について学ぶ機会がありました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者会議・全体会議にて共有し、実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や、全体会議で意見を聞き、繁栄させている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課制度を実施、個々の実績に応じ評価している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修の推進を実施、費用等も法人負担にて受け入れるよう配慮し、法定研修も毎月実施している。入職時にはOJTにて指導を行い、チェックシートや振り返りシートにて確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会など参加にて、交流に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族・ご本人より聞き取りシートにてご要望を伺い、プランに反映させる。居室担当により、ご本人から要望を聞き、不安の解消をすることにより、信頼関係を築く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族・ご本人より聞き取りシートにてご要望を伺い、プランに反映させる。居室担当により、ご本人要望を聞き、不安の解消することにより、信頼関係を築く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のアセスメントを元に、入居前の生活が継続できるよう、入居者様やご家族の意向に沿った支援ができるよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を生かし、出来ることはやって頂き、出来ないことを支援することを大切にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の気持ちに寄り添い、ご家族も一緒に支援して行く事を大切にしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の生活で築いた関係を大切に、なじみの方との交流を継続できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士も、お互いに気遣い、支え合える関係が出来るよう支援に努める。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	老老介護の現実の中で、入居者様のお子様達も高齢な方が多いので、支援が必要な時は手を差し伸べられる関係性に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	おひとりおひとりの要望になるべく応えられるよう、居室担当を設け、職員が個々に関わることで意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントを元に、入居前の生活が継続できるよう、入居者様やご家族の意向に沿った支援ができるよう努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立を尊重し、個々の有する能力に応じた個別ケアに努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い、個々の状態の把握とケアの内容を確認、変更等にご家族へも確認、了承を頂き、介護計画へ反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月カンファレンスを行い、個々の状態の把握とケアの内容を確認、変更等にご家族へも確認、了承を頂き、介護計画へ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月カンファレンスを行い、個々の状態の把握とケアの内容を確認、変更等にご家族へも確認、了承を頂き、介護計画へ反映している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣公民館で開催の、認知症カフェへ参加し、地域住民との交流を図っています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人・ご家族の意向を伺い、これまでの掛かりつけ医を継続するか、それとも施設の嘱託医に移行するかを確認、ご希望に沿う対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を契約、個々の状態変化を共有し、入居者様の健康に留意している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療関係やご家族との連絡を密にし、早期退院できるよう対応、退院後も安心して戻って頂けるよう努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けて、医師の診断の元、ご家族様のご意向があれば、ご家族様と話し合い、十分な説明、同意の元、指針を共有し、お看取りの支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、訪問看護師、管理者に報告、アドバイスを貰える体制は出来ているが、職員個々の判断で応急手当や初期対応が難しい現状なので、研修を実施、実践力を身につけていきたい。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施しているが、地域住民との協力体制の構築には至らず、今後の課題として、近隣住民も交え防災訓練の実施を目指したい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、言葉かけには職員同士でも常に注意し合いながら、自尊心を傷つけない言葉使いや対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室担当制を設け、ご家族やご本人の思いをくみ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自身のペースを大切にし、ご自身の希望に沿った過ごし方を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様が髪の毛のカットや毛染等、自由に選択出来るよう、訪問理美容を利用して頂いています。入浴時の着替えについても、ご本人で選択出来る方については一緒に準備をしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	提携会社による献立より材料を仕入れ、事業所内で、お手伝いの出来る方にはお手伝いをして頂き、手作りをしています（事業所の売りの一つです）片付けもご利用様が積極的にお手伝いしてくれています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・排泄チェック表を記録し、個々の食事・水分量の把握に努め、個々に応じた対応の支援に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の状態確認、異常が有るときは直ぐに提携歯科医へ繋がっています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄については、おひとりおひとりの排泄パターンを把握し、自立の方は見守りにて行って頂き、介助が必要な方についても、座位の保てる方についてはトイレに座って頂いています。法人全体でおむつゼロ作戦を実施し取り組んでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水便・排泄表を確認、特に水分摂取には留意し、飲食や運動での改善も併せて、個別の対応に努めています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	最低週2回の入浴日を設定していますが、その日のご本人の意向や意向を考慮し、無理強いない支援に努め、又ご要望に応じ、同性介助にも留意しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のご自身のペースで自室で休息したり、好きに過ごせるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人の服薬について、目的や副作用についても理解し、変更の際は申し送りや、往診記録等で、情報共有を行い、全職員に周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じてお手伝いをして頂いたり、嗜好品・楽しみ等を把握し、個別の支援に努めています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一部のご家族は週1回ドライブ等実施、支援頂いています。隣の公民館で行う認知症カフェに参加したり、天気の良い日は近隣の公園に散歩に行くなど、少しずつ実施出来ている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、お小遣いとしてご家族よりお預かりし管理していますが、現在ご自身でお金を使用できる方がいないので、ご希望に応じ、職員が嗜好品の買い物の支援を行っています。又施設内の自販機でジュースを自身で選び飲んで頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で携帯電話をお持ちの方もいますので、自由に連絡の出来る支援をしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族やご本人の意向を伺って、ご家庭と同じような設えを支援しています。又なじみのある家具や小物等も自由に持ち込んで頂いています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居様同士が、お互いにお部屋を行き来し、おしゃべりをする等、思い通りに過ごせる空間作りに努めています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居様については、使い慣れた家具やお好みの物を取り入れた空間作りに留意しているが、泊りのご利用者様については、なるべく安心して、落ち着いて過ごして頂ける空間作りに努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身のお部屋の入口に表札を設置したり、トイレ等もわかりやすく案内板を設置する等ご入居様が安心・安全で過ごして頂く空間作りに努めています。		

目 標 達 成 計 画

事業所 のぞみの家 宮内

作成日 令和7年2月3日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
		職員の入退職が多く、教育しても直ぐに辞めてしまう為、職員のスキルアップには繋がらないのが現状。	常勤・非常勤に関わらず、長く勤めてもらう。	法人全体で取り組んで貰い、福利厚生・研修制度を充実させる。	1年
		管理者以外に職員を指導できる人材がいないため、新人の育成が難しい。	新人教育が出来る職員を育てる。	外部研修（リーダー研修等）に参加させる。	1年
		外国人実習生が常勤の半数を占めるため、業務はこなせても、それ以外の仕事（事務的なこと）を教えることが難しい。	外国人実習生の中には介護福祉士の資格を目指している職員もいるので、資格取得後は業務以外の仕事も覚えてもらう。	入社3年目の実習生に指導、事務仕事や往診対応等を教育中です。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。